

いばらき人。



あ く つ し ゅ ん
阿久津 俊さん

社会福祉法人 東海村社会福祉協議会
生活支援課 生活支援ネットワーク係 社会福祉士



東海村社会福祉協議会の生活支援ネットワーク係、阿久津俊さんはこの部署で住民からの様々な相談に対応しています。「相談内容は、介護・障害・子ども・困窮など多岐にわたり、ありとあらゆる相談を受け止め問題解決のお手伝いをしています。増加が顕著な引きこもりやヤングケアラーといった、なかなか自ら声を上げられない方に対して、積極的に声をかけさせていただいて相談につながるような取り組みをしています」と阿久津さん。

阿久津さんが福祉の仕事に就いたきっかけは、祖父が介護を必要な状態になったことから。家族が介護をする様子を見ていて福祉に興味を持ち、茨城キリスト教大学の心理福祉学科に進学、「ゼミの先生が、すごく熱心に福祉の面白さとか魅力を伝えてくれて、自分も福祉の分野で人のために役立つ仕事がしたいと思いました」と振り返ります。

少しずつ良い方向に進んでいくと嬉しい

東海村社協の仕事に就いて感じたことは、住民の福祉への関心の高さだと言います。「大学では福祉を地域におろしていこうと学びましたが、実際にはなかなか難しいことです。しかし東海村では、学習支援ボランティアや地域支援ボランティアが活動していますし、皆さん隣の方を気にかけて遠まきの見守りをしてくださっているのです、こんなに福祉が根付いていることにある意味驚きを感じました」。

仕事のやりがいについてたずねると、「私の仕事は相談にのることが多いので、すぐに解決することではないのですが、少しずつ良い方向に進んでいくなかで、感謝の言葉をいただいたりするとやりがいを感じます。例えば引きこもりやヤングケ

人のために 役立つ仕事がしたいと思った。



アラーは、複合的な問題を抱えていたり、なかなか難しい課題がある方もいるので、そのような方たちと関わるケースでは、まず接点を持つことが大事で、何回も会いに行きます。「もう来るんじゃないよ」と言われてもめげずに、あなたのことを気にかけているというメッセージを届けさせてもらいながら関係性をつくっていきます。だんだん打ち解けて来ると嬉しいし、受け止めてもらえるとうわかってくれて相談までこぎつけると、めげずに一生懸命関わってよかったと思います」とのことでした。



券の企画を実施しました」。阿久津さんの今後の目標は、障害のある方の相談に対応していくために精神保健福祉士の資格を取得すること。また現在の部署で学んだことを活用しながら、他の係で仕事をしてみたいということです。

人と関わるのが好きなら、まずチャレンジを

福祉の仕事を目指す方への先輩としてのメッセージは、「福祉の仕事は人と関わる仕事であるので、人と関わるのが好きな人に向いていると思います。子どもでも高齢者でも、お話をさせていただく中で学ばせてもらっていることが多いので、そういったところに新たな発見があったりもします。それが魅力であり楽しみなので、難しいことを考えずに、まずはチャレンジして欲しいと思います」とのこと。住民と一緒に東海村を盛り上げ、支えあっていきたいという、地域の人のより良い日々を願い前進する「きりり人。」でした。



新たな道を切り開いてコロナ禍にも対応

複合的な問題はすぐに解決できないこともあり、もどかしさを感じるという阿久津さん。「ある一点の問題、困窮だけを解決しても、そのご家庭を覗くと例えば障害を抱えるお子さんがいたり、他の問題が顕在化してきたりするとところに難しさを感じます」と言います。こういう場合は、組織内でカバーしあったり、村内外の関係機関と協力しながら、問題解決に取り組んでいく、お互いにカバーしあえる関係性ができているそうです。また、解決できなくてもつながり続けることを意識しています。

阿久津さんにとって福祉の仕事の魅力とは、「社協ならではになるのですが、制度の狭間とか、なかなか法定化されていない部分について新たな道を切り開いて対応できることが魅力です。コロナ禍であっても、住民同士の人と人とのつながりを絶やさないために何ができるかを考え、社協ならではの即応性で企画を考えます。マスク不足の時にはボランティアさんの手づくりにより、医療従事者や高齢者施設にマスクをお届けする事業を実施しました。緊急事態宣言の際には飲食店や、子育て世代をサポートするテイクアウト・デリバリー

